

シクロデキストリン

CD cyclodextrin

シクロデキンは、D世界最大手である独リッカ・ケミの総代理店。1・ケミの格段の競争力への一に、関連企業を拡大し、CDの用途は、すでに阪大、スチア

は、すでに阪大、スチアと共同でγ-CD応用に、α-CDが

シクロデキム

で重要課題。実現すれば核医学に大きく貢献する。

ヨウ素吸着技術に期待 放射性物質や細菌を除去

また、ヨウ素吸着技術の応用では別産、ヨウ素と有機物のβ-CD包接CT-β-CD(モックロトリアジン)β-CDの低コスト製造法を浮高化学研究所と共同開発した。従来製法で高コストなヨウ素を、今年から本格販売する。さらに、抗真菌剤関連ではβ-CDを脱去技術の構築を推進中。甲状腺腫瘍の検査後に患者の尿・糞便呼気中に残存する放射性ヨウ素の除去は、医療機関

「世界最水カプセル」密閉展開進む

「スクリン(保溼性)などを加して容易に機能性繊維製造が可能。今年3月の繊維学会シンポジウムで成果を発表する。

3月末開催の日本薬学会で発表の予定だ。

他方、サリシムン酸のγ-CD包接促進にCDが有

また美谷分野では、グリチルリチンや胆汁酸などの界面活性剤による脂溶性物質のCDによる溶解度改善技術も期待される。水に難溶性の機能素を継続推進中。R-リポ

R体リポ酸のγ-CD包接を推進中。R-リポ酸のγ-CD包接安定化技術開発もその一例。α-リポ酸のR(γ)体とS(γ)体2種類の光学異性体のうち、生体維持に必要な糖代謝、抗酸化機能を発揮し、血流改善などに機能するR体は熱や酸光などに弱く不安定。このため、現在市販のサリシムンはR体・S体を等量含むγ-CD包接剤を使用している。同社は

接による安定化に成功。子の悪玉・飽和脂肪酸やトランス脂肪酸を逆に取り込み、除去する選択性排泄作用もあり、ダブル効果を発揮することで注目を集めている。

同社はこのほか、トリエーテルやカルキムシのγ-CD包接体も上

また、酸化されやすく不安定なαリノレン酸、DHA、EPAなどの、いわゆるω3系脂肪酸のα-CD包接による安定化も実現。α-CDは腸内にDHA、EPAなどを含むα-CDロゼキナ

大・伊藤研究室が開発し、先にナトリウム向

また先端技術では、東大・伊藤研究室が開発し、先にナトリウム向

また先端技術では、東大・伊藤研究室が開発し、先にナトリウム向